

## エルシーブイ FM 第 102 回放送番組審議会

1. 日時 2024 年 3 月 19 日 (火) 13 時 00 分から 14 時 00 分

2. 場所 諏訪市四賀 エルシーブイ株式会社 本社

3. 出席者 委員定数 6 名

出席委員 5 名

佐久 秀幸 委員長  
宮坂 ちとせ 副委員長  
宮原 渉 委員  
岩波 尚宏 委員  
宮坂 有憲 委員

欠席委員

茅野 徳雄 委員

放送事業者側 7 名

八幡 聡 放送制作部長  
吉田 和晃 放送制作部 FM 制作課長  
小池 利幸 放送制作部報道課長  
早川 達朗 放送制作部編成課長  
佐野 銀次朗 放送制作部制作課長  
上條 綾子 放送制作部 FM 制作課  
中島 裕子 放送制作部 FM 制作課

4. 議事次第

- ・自主制作番組「ものづくりラジオ」について審議

5. 議事の概要

### 【審査番組】

岡谷市のものづくりフェア 2024 にあわせて、総務省信越総合通信局・信越情報通信懇談会・長野県電波適正利用推進員協議会と共同で親子ラジオ工作教室を開催。諏訪地域の親子を対象に参加者を募り、ラジオ工作キットを組立てて、実際にラジオの生放送番組に出演することで、LCVFM をより身近に感じてもらおう。小学校 4 年生から中学 1 年生までの 10 人とお父さんお母さんが参加した。

親子で交互に出演し、子どもから親へ親から子へ、普段は照れくさくて顔を会わせては伝えられないことも、ラジオを通して話してもらった。

## 自主制作番組「5時スタ☆」に関する主な意見としては

### □企画趣旨について

- ◎子供たちがラジオを聴く機会、特に自分や家族の声を聴く機会は教養につながる
- ◎「ものづくりフェア」という岡谷市の行事は素晴らしい。  
そこに「ラジオ工作」という形でLCV-FMが関わることは、行事の趣旨にも合致し、大変良い企画である。
- ◎情報収集のツールが多様化するなかで、自分の手で触れる機会は子供の成長を促すことにつながる。
- ◎ラジオを作り、自らの声を聴く体験は貴重で、ラジオから音が聞こえてきたことは良い思い出になるだろう。一生忘れられない番組になったのではないか。

### □番組の構成・内容について

- ◎参加者も多く、楽しい1日の様子が良くわかる内容だった。
- ◎子供と親とがわかれて出演する構成はこれまで聞いたことがなく、新しさを感じた。
- ◎パーソナリティー、出演する親子の緊張感が新鮮だった。  
ラジオを作る、出演する、聴く体験、親子の交流が印象的だった。  
親子で、普段は聞くことがないだろう会話が新鮮で、「ありがとう」が心に残った。  
様々な番組で活用できる制作手法ではないか。
- ◎1時間の番組は長い。何組出てくるのか、聴く側は飽きてしまう印象。  
親子で出演が分かれているため、だれの親なのかがわからず、子供の名前と出演している親の名前が結びつかなかった。  
工作体験中の音を収録しておき、番組冒頭で紹介するなどの演出があっても良い。  
事前にアンケートをするなどして、基本となる情報を資料にしておき、会話を引き出すことができれば一層内容は深まる。
- ◎番組タイトル「ものづくりラジオ」から、ものづくりの楽しさを感じられる内容だと想像していたが異なる内容だった。インタビューの中の「感動」を、より深めていきたかった。  
親子のインタビューはともに相手を思いやる気持ちがわかり、心が温まる内容だった。子供たちの明るさが伝わってきた。

### □パーソナリティー・トークの内容について

- ◎パーソナリティーの子供の声を聴く力を感じた。
- ◎子供が相手の番組は難しいことだっただろうと感じたが、うまく進行していた。

以上、各委員から多数のご意見を頂きました。